



2013年度 教育課程論Ⅱ
Ⅱ. 学力評価とカリキュラム設計
(教育課程)
2013年10月16日
京都大学 西岡加名恵

I. オリエンテーション

この授業では、下記の4つの課題に取り組んでもらいます。

- 課題A「日々の記録」（一枚ポートフォリオ）
- 課題B「パフォーマンス課題づくり」、または
課題C「学力評価計画の策定」
- 課題D「ポートフォリオ評価法」
(a) 生徒への説明、または
(i) 「やましろ文箱」交流会
- 課題E 「論説記事 日本の教育課程改革」

※詳細は追々説明していきますが、第1・2回の配布資料をよく読んでおいてください。

Ⅱ. 学力評価とカリキュラム設計

- 教育評価の基本用語 …10月16日
パフォーマンス評価とは何か
- カリキュラムの「逆向き設計」 …10月23日
～パフォーマンス課題、ループリックなど
- 学力評価計画の立て方 …10月30日
ポートフォリオ評価法
- パフォーマンス課題の作り方 →課題B
学力評価計画の立て方 →課題C
ポートフォリオの設計 →課題D(あ)

3

◎「一枚ポートフォリオ」 「日々の記録」④

- パフォーマンス課題を用いた場合の「目標に準拠した評価」の意義は何か？ 文章で説明してください。
- パフォーマンス課題に関して、疑問に思ったことは何ですか？ 疑問文の形で書いてください。

Cf. 堀哲夫『教育評価の本質を問う 一枚ポートフォリオ評価 OPPA』東洋館出版社、2013年

1. 教育評価の基本用語

(1) 教育評価とは何か？

- ① 教師が児童・生徒の能力を評価する。
- ② 教師が児童・生徒の学力を評価する。
- ③ 教師が自分の教育実践を評価する。
- ④ 社会が学校の教育を評価する。

※何番が正解でしょうか？

5

(2) そもそも教育とは何か？

学力は、能力一般ではない。目標として設定された能力の部分を指す。

教育評価の中核は、
学力評価！
教育評価は、本来、
「目標に準拠した評価」

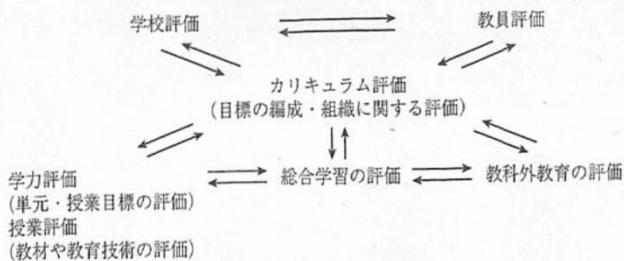
働きかけ=教育

事後：_____評価

途中：_____評価

事前：_____評価

(3) 教育評価の対象と構造



(田中耕治『教育評価』岩波書店、2008年、p.85)

7

(4) 学力評価の4つの立場(規準)

←指導要録の変遷

◎指導要録とは…

「指導要録は、児童生徒の学籍並びに指導の過程及び結果の要約を記録し、その後の指導及び外部に対する証明等に役立たせるための原簿となるものであり、各学校で学習評価を計画的に進めていく上で重要な表簿です。」

(文部科学省初等中等教育局長「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について(通知)」2010年5月11日)

http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/attach/1292898.htm

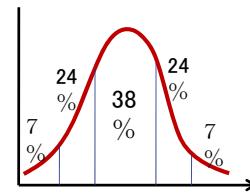
8

◎指導要録の参考書式(一部)

(http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/attach/1293813.htm)

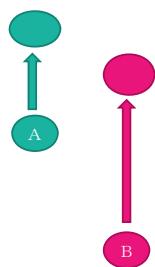
① 戦前の絶対評価(認定評価)←学籍簿

② 相対評価(集団に準拠した評価)



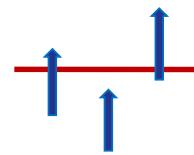
10

③ 個人内評価



④ 目標に準拠した評価

○教育目標を評価規準として児童・生徒の学力を評価するもの



11

◎戦後の指導要録の変遷

	「評定」欄	「所見」欄
1948年		
1955年	相対評価	個人内評価
1961年		
1971年		
1980年	“絶対評価を加味した相対評価”	個人内評価
1991年		
2001年	目標に準拠した評価	個人内評価
2010年		

(田中耕治他『新しい時代の教育課程(第3版)』有斐閣、2012年、pp.328-330)

12

Q. 相対評価の長所と問題点は何か？

長所
問題点

13

Q. 「目標に準拠した評価」の意義と課題は何か？

意義
課題

14

(5) 学力評価計画の立て方

目標分析 **※問題点は？**

	単元1	単元2	単元3	…	総括的評価
関心・意欲・態度	目標aa 目標ab 目標ac	目標ad 目標ae 目標af	目標ag 目標ah 目標ai	…	合計・平均
思考・判断	目標ba 目標bb 目標bc	目標bd 目標be 目標bf	目標bg 目標bh 目標bi	…	合計・平均
技能・表現	目標ca 目標cb 目標cc	目標cd 目標ce 目標cf	目標cg 目標ch 目標ci	…	合計・平均
知識・理解	目標da 目標db 目標dc	目標dd 目標de 目標df	目標dg 目標dh 目標di	…	合計・平均

15

◎問題点

- 目標が限りなく細分化。⇒多忙化
- _____がわからない。
- 「高次の学力(思考力・判断力・表現力等)」が評価できるか、疑問。
- どの程度のパフォーマンスが見られれば「良し」と判断できるのか、不明。
～_____←社会的に共通理解
- 伸びないことが前提？！
←形成的評価(授業改善のための評価)と総括的評価(指導後の状況を記録するための評価)の区別がついていない。

16

(6) 「逆向き設計」論

～『理解をもたらすカリキュラム設計』

理解をもたらす
カリキュラム設計
UNDERSTANDING by DESIGN

逆向き設計で確かな学力を保障する
西岡加名恵著

活用する力を育てる
授業と評価
西岡加名恵・田中耕治著

17

◎「逆向き設計」論

求められている結果
(目標)を明確にする

修了時をイメージする

承認できる証拠
(評価方法)を決定する

指導の前に評価方法を計画する

学習経験と指導を
計画する

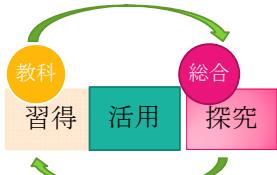
(Wiggins, G. & McTighe, J., *Understanding by Design*, ASCD, 1998/2005,
G・ウィギンズ&J・マクタイ著(西岡加名恵訳)『理解をもたらす
カリキュラム設計』日本標準、2013年)

18

2. 目標と評価方法の対応

(1) 2008年改訂学習指導要領の学力像

- ①習得 ・基礎的・基本的な知識・技能の習得
- ②活用 ・知識・技能を活用して課題を解決するため
に必要な思考力・判断力・表現力等
- ③態度 ・主体的に学習に取り組む態度



19

(2) 活用する学習活動の分類

(中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について(答申)」2008年1月17日)

- ① 体験から感じ取ったことを表現する
- ② 事実を正確に理解し伝達する
- ③ 概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする
- ④ 情報を分析・評価し、論述する
- ⑤ 課題について、構想を立て実践し、評価・改善する
- ⑥ 互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる

20

(3) 2010年改訂指導要録における「観点別学習状況」欄の観点

- 「関心・意欲・態度」 ←③態度
- 「思考・判断・表現」 ←②活用
- 「技能・表現」 ←①習得
- 「知識・理解」 ←①習得

(中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会
「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」
2010年3月24日)

21

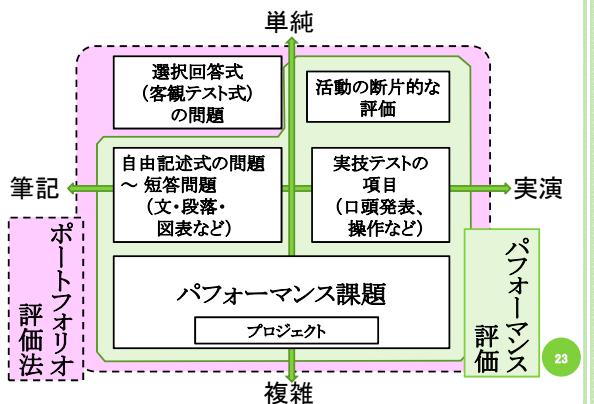
(4) 「思考・判断・表現」の評価

- 基礎的・基本的な知識・技能を活用しつつ、各教科の内容等に即して思考・判断したことを、記録、要約、説明、論述、討論といった言語活動等を通じて評価するもの
※言語活動だけではない(図・グラフ、構想や設計など)
- 思考力・判断力・表現力等を評価するに当たって、「パフォーマンス評価」に取り組んでいる例も見られる。**パフォーマンス評価**とは、様々な学習活動の部分的な評価や実技の評価をするという単純なものから、**レポートの作成や口頭発表等による「マサ評価」**するという複雑なものまでを意味している。または、それら筆記と実演を組み合わせたプロジェクトを通じて評価を行うことを指す場合もある。

(中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」2010年3月24日)

22

(5) 様々な学力評価の方法



23

◎パフォーマンス評価 登場の背景

◆1980年代末から1990年代にかけてのアメリカ合衆国

- 客観テストによって、学校の説明責任を求める政策への批判

- 学力観の転換

○「真正の評価(authentic assessment)」論

- 現実世界において人が知識や能力を試される状況を模写したりシミュレーションしたりしつつ評価することを主張するもの



「固液混合物」を純粋な物質に分け、性質を明らかにする実験を、計画・実施・報告しなさい。
(Wiggins, G., *Performance Assessment in Action, ReLearning by Design*, 2000;)

◎パフォーマンス評価とは…

- 知識やスキルを使いこなす(活用・応用・総合する)ことを求めるような評価方法(問題や課題)

◎パフォーマンス課題とは…

- _____知識やスキルを_____使いこなすことを求めるような、_____課題。
- 具体的には、論説文やレポート、展示物といった完成作品(プロダクト)や、スピーチやプレゼンテーション、実験の実施といった実演(狭義のパフォーマンス)を評価する課題。

25

◎ポートフォリオ評価法



26

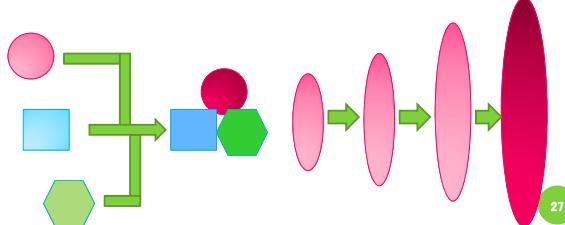
(クロー・アイランド小学校提供、2001年)

3. パフォーマンス課題の例

◎パフォーマンス課題の位置づけ方 (単元内・単元間の構造)

パート組み立て型

繰り返し型



27

(1) 中学校・理科

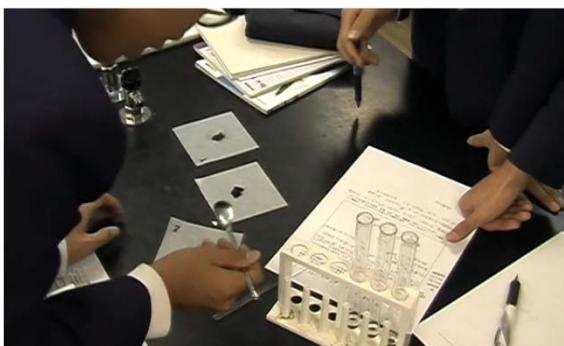
「黒い粉の正体——実験報告書」

- あなたはある学校の理科の実験助手の仕事についています。ある日、実験室の整理を頼まれ、薬品棚などを掃除していると、ラベルのはがれた黒い粉の入った瓶が出てきました。あなたは自分でその薬品が何かを調べてラベルをはることにしました。実験室にあるもので物質を調べる実験を考え、実験計画書を作りなさい。その上で実際に実験を行い、結果とその考察を書きなさい(根拠を述べて黒い粉の物質名を明らかにすること)。ただし、実験は安全かつできるだけ簡単な操作ですむように工夫しなさい。

(井上典子先生提供。堀哲夫・西岡加名恵著『授業と評価をデザインする 理科』日本標準、2010年、p.186)

28

◎授業の様子



(井上典子先生提供)

29

◎単元間の構造化

観察・実験の基本操作 (ガスバーナー、ろ過など)

実験結果の記録の仕方 (表、グラフ、観察記録文。結果と考察の区別の仕方)

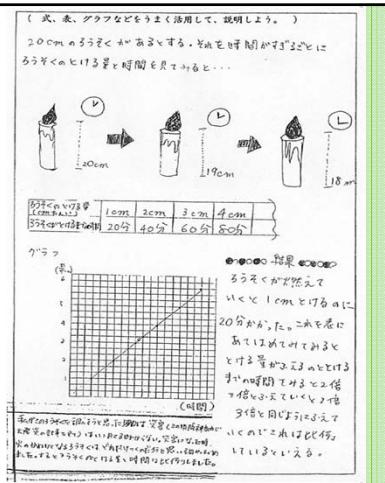
実験計画の立て方 (条件制御、手順など)

実験を計画し、
実施し、結果を
記録し、考察し、
報告する。

30

(2) 中学校・数学 「数量関係の コンサルタント」

(大塚宗治「生活の中の関数を捉える」
西岡加名恵編著
『逆向き設計』で
確かな学力を保障
する』明治図書、
2008年、p.98)



(3) 中学校・社会科 「経済政策を 提案しよう！」

(三藤あさみ先生提供。
三藤あさみ・西岡加名恵
『パフォーマンス評価に
どう取り組むか』日本標準、
2010年参照)



(4) 小学校・国語科 「読書会をしよう！」

グループに分かれて、読書会をします。
物語を読み、「じっくり考えてみたいなあ」と思ったり、「友達と話し合ってみたいなあ」と思ったことについて、20分程度、話し合いをしましょ。お互いの発言を生かし合って、読みを深めるような話し合いになるといいですね。

(宮本浩子・西岡加名恵・世羅博昭『総合と教科の確かな学力を育むポートフォリオ評価法 実践編』日本標準、2004年参照)

33

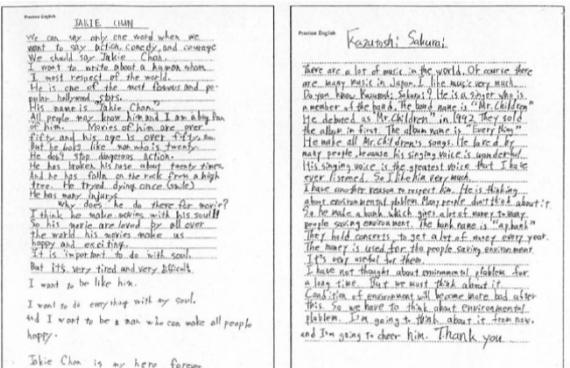
(5) 中学校・英語 「私が尊敬する人」

これから後輩たちに英語でメッセージを書きます。その中では、あなたが選んだ偉人がどういう人なのか、なぜあなたはその人を尊敬しているのかを述べてください。その偉人が何を目指して、どのような人生を歩んだ人なのかを説明とともに、あなた自身とその人を比較して、あなたがどのように考えているのかについて述べると、生き生きとしたメッセージになります。後輩たちがこのメッセージを見て、英語学習の目標にできるような作品に仕上がるよう、この3年間で身につけた英語の力を総動員して作成しなさい。

(森千映子「自分の考えを自分の言葉で表現する」西岡加名恵編著
『逆向き設計』で確かな学力を保障する』明治図書、2008年、p.111)

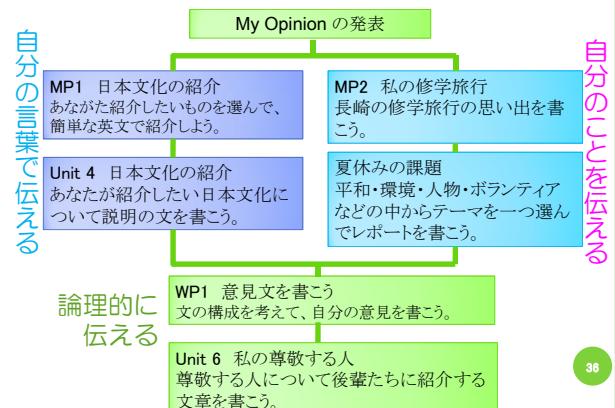
34

◎生徒作品の例



(森千映子「自分の考えを自分の言葉で表現する」西岡加名恵編著
『逆向き設計』で確かな学力を保障する』明治図書、2008年、p.117)

◎単元間の構造化



自分のことを伝える

35

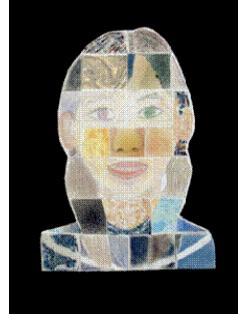
**(6) 中学校・美術科
『真の自分』を発見し、表そう』**

- これまでの人生や作品制作を振り返り、自分の考える「美」の概念を明らかにし、形や色、表現方法、描画材料、表現技法を自由に組み合わせながら、自画像を描きましょう。使用できる用具や材料は、以下の通りとします。クレヨン、パステル、色鉛筆、絵具、マーブリングセット、スパッタリングセット、ストロー…

[後略]

(武田巨史先生の実践。西岡加名恵・田中耕治編著『活用する力』を育てる授業と評価・中学校』学事出版、2009年、p.97)

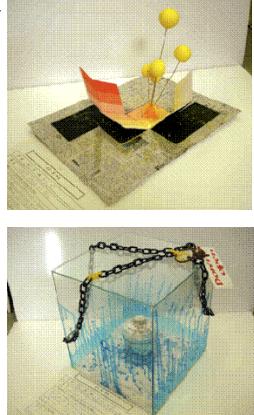
題名「Don't Know At All」→



↑題名「私」

(武田巨史先生提供)

題名「閉ざされた心」



37

38

**(7) 中学校 技術・家庭科(家庭分野)
「30分で和定食を作ろう」**

- あなたは今度の勤労感謝の日に、いつも働いてくれている両親のために、夕食を作ることになりました。メニューは、ご飯、豆腐のすまし汁、肉じゃがです。その日は5時まで部活があるので、料理に使える時間は30分しかありません。30分以内に、手早く、おいしく、安全に夕食を作つてください。

(田中早苗「技術・家庭科〔家庭分野〕」京都大学大学院教育学研究科E.FORUM『スタンダード作り』基礎資料集』2010年)

(8) 教育実習

- あなたは、●月●日の●時間目に、●年●組の授業を担当します。この授業では、教科書の●-●頁の内容を扱わなくてはなりません。生徒の特徴を把握し、それに対応できる様々な指導上の工夫を行って、すべての生徒に効果的な学習を促すような魅力的な授業を実践してください。
- 指導案、可能であれば自分の授業を録画したDVD、板書の写真、生徒たちに配布したワークシート(または生徒のノートのコピー)、行った授業に関する振り返り(実践した際の成功点・反省点・改善点)を書いたメモ(関連する内容を書いていれば当日の実習日誌でも可)、指導教員の先生からいただいたコメントや、可能であれば生徒たちからの授業感想を、教職課程ポートフォリオに収めておきましょう。(下線部は必須の成果資料)

■課題B「パフォーマンス課題づくり」
■課題C「学力評価計画の策定」

- 準備物
 - ・学習指導要領
→各教科の目標・内容
 - ・文部科学省初等中等教育局長「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について(通知)」2010年5月11日
→指導要録の「観点別学習状況」欄における各観点の意味
 - ・国立教育政策研究所教育課程研究センター「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」
<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryou.html>
 - ・教科書(入手先については第1回授業の配布資料を参照)
 - ・教科書会社のウェブページ
 - ・その他、教材研究に役立ちそうな資料

■京都大学大学院教育学研究科
E.FORUM (<http://www.educ.kyoto-u.ac.jp/e-forum/>)



8月と3月に研修

E.FORUM Online (EFO)
～データベースと掲示版

E.FORUM Standard
→ウェブページで公開予定